

どう学ぶ?

リトミック指導員養成校は
さまざまな学び方が可能

リトミック指導員には複数の資格があり、資格ごとに大学・短大・専門学校、各種学校などが養成機関となる。国立音楽院の場合は1年～2年の養成課程で自分の目標に応じた発達心理学・ダンス・音楽療法などを学び、実習を経たのちに資格取得となる。

どう稼ぐ?

幼稚園、保育園のほか
福祉の現場にも拡大中

リトミックは、幼稚園、保育園などの幼児教育の現場で活用されるだけでなく、子どもの可能性を伸ばす幼児教室などで人気。また最近では、老人福祉施設など福祉の現場でも、リトミックによる脳内活性、運動機能維持が期待されている。

**ニュース
&
TOPICS**

個性や能力の大半が形成される敏感な幼児期。音楽リズムを中心に、こどもの心身の調和、秩序感、情操、ドキドキワクワクする旺盛な好奇心や豊かな吸収力、健康と元気を育成するのがリトミック。幼児教室、幼稚園のカリキュラムとして採り入れられるほか、保育園での導入も進んでいる。また今後は、福祉分野での活用拡大が期待される注目の資格だ。

国立音楽院認定 幼児リトミック指導員

安東千春さん 35歳



国立音楽院リトミック本科卒業。都内のカルチャースクールなどに勤務後、結婚のため大阪に転居。現在セブカルチャークラブ専任講師。

**歌、音楽、リズムを使って、
子どもの無限の可能性を引き出す
幼児教育、生涯教育の
エキスパートとして活躍できる資格です**

**リズムにのって、
子どもがイキイキ！
ママのストレス発散も**

「おつかたづけ、おつかたづけ」音楽にあわせて、楽しそうに遊具を片付ける子どもたち。

「ここは安東さんが指導するリトミック教室だ。ピアノの生演奏をバックに、歌やタンバリン、ハンドベルを使ったリズム遊びで子どもが元気に跳ね踊る。」

リトミックとは、スイスの作曲家・音楽教育家エミール・ジャック・ダルクローズ氏によって考えだされた音楽教育法だ。

「リトミックのことを知ったのは高校生の時。幼稚園かピアノの先生になりたいと思っていたのですが、リトミックなら両方できる!と思ったんです」という安東さん。教室では、音楽にあわせてイキイキとした表情になっていく子どもの姿を見ることはもちろん、ママたちにも「ここに来ると子育てのストレス発散できる」と喜ばれるのがうれしいという。都内でさまざまな教室を担当した安東さんだが、結婚を機に大阪に「引退も考えていたのですが、大阪

にもリトミック教室があることを紹介され、5年前から週1回、3クラスを担当しています」という安東さんも、今はママ。

**子どもができて
力の抜き方がつかめた。
長く続けていきたい**

「自分が母になることで、若い頃のエネルギー全開の指導法から、力の抜き加減というか、強弱のバランスのとりがわかって、子どもたち一人ひとりの様子が、よりわかるようになってきました」
40分の教室の時間中、ずっと歌って、踊って。体力勝負の仕事のように、子どもとの接し方ももちろん、



「お返事の時に、元気にベルを鳴らしてね!」「はい!」「よくできました」。ハンドベルを振ると音が出る。はじめは不思議そうだった子どもたちも徐々に夢中になっていく。

**子どももママも笑顔にできる。
結婚しても、出産しても
自分のペースで仕事が続けられる。
リトミックを続けて良かったです。**

主催団体

国立音楽院

受験資格

18歳以上

目安となる取得期間

1年～2年